

# 一貫生産だからこそできる チームワークのものづくり。

笹埜侑花

管理課 / 管理開発

「幼い頃から、ものを作ったり絵を描いたり表現することが好きでした」と話す笹埜さんは、高校から服飾を専攻し、ファッションショーなども経験。「やっぱりものづくりって楽しい!」と感じたそうです。その後、専門学校に進学して服飾を学ぶ中で、授業でジーンズ工場の見学をしたことがきっかけで、ジーンズの加工に興味を持ったといいます。「生地によって履き心地が違うし、加工によって見え方が大きく変わり、ジーンズは生地や加工によって変化するところが面白い」と、一貫生産を行っているところに魅力を感じて入社を決めました。

入社3年目の笹埜さん。1年目はパーツの組み立てからサンプル縫製、加工、仕上げと様々な工程を経験。現在は管理開発の業務を担当しています。「もともと縫うことが好きでしたが、製品の仕様を知ることも楽しくなりました。そのタイミングで今の仕事をやってみないかと声をかけてもらいました」と語る。取引先から「こんな商品が作りたい」と依頼があれば仕様書を書き、サンプル縫製の手配から量産まで、取引先と現場を繋ぐ窓口としての役割を担っています。「サンプルで判明した問題点が解決して、上手くいったときは達成感があります。納期の面などで現場に無理なお願いをすることもありますが、みなさん快く対応してくださるので本当に感謝しています!」と笑顔で話す。

生地の特性、仕様や加工についてまだまだ分からないことが多く、日々経験を積み重ねている。「常に心掛けているのは、理解されやすい伝え方。次の工程の人が作りやすいようにパトンプラスをすること。チーム全体を思いやる心をもって、これからものづくりをしていきたいです」と意欲をのぞかせる。



## もっと生の声

### Q & A

- やりがいを感じるの、どんな時ですか?  
製品が形になっていく様子を一から関わって見られるのが楽しいです。実際に製品が完成したときや、商品として販売されているのを見たときはやりがいを感じます。初めて自分が最初から関わった製品で、取引先から「好評だよ!」「売れ行き良いよ!」とお褒めの言葉を頂いたときには、とても嬉しかったのを覚えています。
- 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。  
私が勤めたこの3年間で、生地、加工方法、シルエットなど多くの変化がありました。そもそもジーンズは加工などによって変化が多く面白いうえに、流行に応じても変化します。興味がある人は飽きずに楽しめると思います。その分、勉強することはたくさんあって大変なこともあります。ファッションが好きなお人にはぜひ目指してもらいたいです。

